

患者と薬剤師のコミュニケーションを啓発するための動画作成とその有用性 (第2報)

○栗原理¹⁾、三橋能弘¹⁾、程島直子¹⁾、岸野淳二¹⁾、中畑智予¹⁾、工藤香代子¹⁾、宮武昌也¹⁾、
板野祥明¹⁾、米澤晴子¹⁾、野村香織^{1) 2)}、井手口直子³⁾、後藤恵子⁴⁾

1) くすりの適正使用協議会 くすりのしおりコンコーダンス委員会

2) 公益社団法人日本医師会、3) 帝京平成大学、4) 東京理科大学

【背景】患者と薬剤師がパートナーシップをとり治療に取り組んで行くというコンコーダンスの考えに基づいた啓発用動画を作成し、第7回大会にて、患者を対象としてその有用性を調査した結果を報告した。今回は、薬剤師を対象とした調査結果について報告する。

【目的】薬剤師を対象に、動画を通じて患者とのコミュニケーションの現況、並びに作成した動画自体の評価を調査する。

【方法】ウェブ上で動画(約12分)を視聴してもらい、同時にアンケート調査を実施した(調査期間:2013年12月17日~2014年1月16日)。

【結果】病院勤務薬剤師256名、調剤薬局勤務薬剤師262名の計518名(男性255名、女性263名)から回答を得た。事前設定した患者とのコミュニケーション内容6項目のなかで「よくしている」を選択したのは、「処方薬の説明」が78.8%と高く、「家族歴の確認」では9.7%と低かった。動画を閲覧後、「今よりもっと患者とのコミュニケーションを取りたいと思った」薬剤師は86.4%であった。一方、「思わなかった」と答えた薬剤師(70名)にその理由を尋ねると(複数選択可)、「くどいと患者が嫌がる」が80.0%、「時間が取れない」が51.4%と上位の回答であった。「すでに十分良好なコミュニケーションが取れている」との回答も44.3%あった。また、初診の患者に内容が理解されたかどうかを動画で用いた復唱法などを使って必要に応じて確認している薬剤師は69.1%であった。確認している薬剤師は、「くすりのしおり[®]」を知っている、又は使用している群で高かった。動画の評価では、「総合的な関心」を含め6項目中5項目に関して72.0%以上の肯定的評価を得たが、動画再生時間に関しては51.9%にとどまった。動画に組み込んだ患者とのコミュニケーションのプロセスに必要な要素は、9項目のどの項目も概ね理解された。

【考察】薬剤師と患者とのコミュニケーションの現況として、服薬指導はほぼ徹底されているものの、患者の理解の確認は必ずしも十分ではないと考えられた。「動画自体の評価」としては概ね好評であり、患者とのコミュニケーションに必要な要素も理解しやすい動画であることが示唆された。また、この動画は薬剤師のコミュニケーション研修の教材としても活用できることが推察された。